

研究種目：若手研究 (B)

研究期間：2007～2010

課題番号：19720230

研究課題名 (和文)

M. モース技術論に基づく技術人類学の構築：「効果的な伝統的行為」概念に注目して

研究課題名 (英文)

An Anthropological Study on Technology Based on Marcel Mauss' s Technology

研究代表者

森田 敦郎 (MORITA ATSURO)

大阪大学・人間科学研究科・講師

研究者番号：20436596

研究分野：人文学

科研費の分科・細目：文化人類学・文化人類学・民俗学

キーワード：タイ、マルセル・モース、実践、技術人類学、機械技術

### 1. 研究計画の概要

本研究の目的は、タイにおける近代技術と工学の発展を事例に、技術に関する人類学的理論を構築することである。この研究は、次の二つの課題から構成される。第一の課題は、マルセル・モース (Marcel Mauss) の技術論の再評価をもとに近年の技術史、科学社会学の成果を取り込んで、技術の人類学的理論的な枠組みを構築することである。第二の課題は、タイにおける近代技術の発展を民族誌的に検討し、この枠組みを経験的なレベルで検討・発展させることである。

また本研究では、海外の学会、研究機関、国際ジャーナルなどでの発表をとおして、その成果を国際的に発信することを目指している。

### 2. 研究の進捗状況

タイでの現地調査と理論的な作業はすでにおおいた完成し、国内ジャーナル、学会などで成果の発表を開始している。現時点での主な作業は、国際発表の場での討議をとおした成果の最終的なチェックと議論の精緻化である。

タイでの現地調査については、19年、20年、21年ともに年に一度程度、土着の機械工業および土木工学の実践と地域社会についてのフィールド調査を行った。ここでは、筆者の主な調査地である東北地方ナコンラチャシマー市に加えて、新たな調査地として選定した中部地方のニカ所 (ロブリー県、アユタヤ県) での調査を開始した。これらの調査では、技術的なプロセスと人々の社会生活の関係 (機械技術の発展と機械工の生活史、ダムと地域社会の関係など) について集中的

な調査を行ってきた。

これに加えて、国内・国際学会、研究会での発表・討論をとおして技術の人類学についての理論的枠組みの構築を進めてきた。また、こうした作業をとおして、科学技術論、国際開発など他分野の研究者との交流も進めてきた。これらの調査および理論的な作業の成果は、学会誌『文化人類学』ほか、論文集などにて発表した。

さらに20年度と21年度には、最終的な成果の国際発表に向け、国際学会などで積極的に発表を行ってきた。とくに21年度には、台北、ブリスベン、ワシントン、大阪などで合計6本の英語での発表を行い、関心を持った海外の研究者との協力関係を築いた。

これらの発表をとおして、技術の人類学という新しい分野に対する国際的な関心がある程度喚起するのに成功した。また、その結果、筆者の研究に関心を抱く国外の研究者が複数現れ、協力関係を確立することができた。

### 3. 現在までの達成度

②おおむね順調に進展している。

(理由)

マルセル・モースの技術論を再評価するとともに、現代の事例をとおしてさらなる枠組みの発展を目指すという本研究の計画は、非常に順調に進んでいる。すでに、口頭発表や草稿のレベルでは、上記の目的はおおむね達成されたといえる。今後の課題は、成果の日本語・英語での刊行を行うことである。

とくに後者については、海外での協力者の登場などによって予想以上のペースで進みつつある。すでに口頭発表では一定の評価を得ているので、最終年度には成果を2～3本

の国際ジャーナル投稿論文にまとめることを目指す。

#### 4. 今後の研究の推進方策

一流の国際ジャーナルに投稿し、採択されるためには、細分化された各ジャーナルの現在の掲載傾向と国内ジャーナルとは異なる議論の文脈を正確に把握することが重要である。最終年度には、これまで交流を持ったデンマーク、アメリカ、台湾などの研究者とのさらなる交流を行い、一流の国際ジャーナルに掲載されるレベルの投稿論文を作成することを目標とする。

さらに本プロジェクトでは、こうした国際交流をとおして、本研究の成果に基づく今後の国際研究協力の基盤を構築することも目指している。本プロジェクトのこれまでの経緯から見て、日本が技術の人類学の中心地のひとつとして国際的に認知される可能性は十分にあると思われる。最終年度はさらなる国際交流をとおして、本プロジェクトの成果を引き継ぐ地盤作りを行う。

#### 5. 代表的な研究成果

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

[雑誌論文] (計2件)

①森田敦郎 2009 「序 アカウンタビリティと目に見える世界の探求」『文化人類学』73(4): 499-509 査読有

②森田敦郎 2009 「デザイン、能力、ヒエラルキー: タイ土着の機械技術における人とモノの目に見える秩序」『文化人類学』73(4): 561-586、2009年3月 査読有

[学会発表] (計15件)

①Morita Atsuro 2009. 11. 23. “Machine as Relational Object: emergence of hybrid relations in Thai Indigenous mechanical engineering” Asia-Pacific Science, Technology and Society Network Conference 2009. (at Griffith University, Brisbane, Australia)

②Morita Atsuro 2009. 10. 29. “Diffusive Agency and Materiality in Informal Engineering Practice: The Case of the Engineering Identity in an Informal Sector of Thailand” Annual Conference of Society for Social Studies of Science (at Washington DC)

③Morita Atsuro 2009. 7. 20. “Compelled to Compare: Travelling Machines, Uncertainty and Emergent Relations in Thai Indigenous Engineering”. International Workshop “Traveling Comparisons: Ethnographic Reflection on Science and Technology” (at Osaka University, sponsored by GCOE

Project “A Research Base on Conflict Studies in Humanities” )

④Morita Atsuro 2009. 7. 20. “Travelling Comparisons: Ethnographic Reflections on Science and Technology”. Co-authored with Mohacsi Gergely. International Workshop “Traveling Comparisons: Ethnographic Reflection on Science and Technology” (at Osaka University, sponsored by GCOE Project “A Research Base on Conflict Studies in Humanities” )

⑤ Morita Atsuro 2009. 6. 20 . “Technological Indigenization and Emergent Relations: Development of Agricultural Machinery in Thailand”. Conference of East Asian Science, Technology and Society: a International Journal (at National Yang Min University, Taipei, Taiwan)

⑥Morita Atsuro 2008. 8. 23. “Machines, Practices and Collectivity: the Co-Construction of Agricultural Machinery and Social Groups in Thailand.” Joint Conference of Society for Social Studies of Science and European Association of Studies of Science and Technology (at Erasmus University, Rotterdam)

[図書] (計2件)

①森田敦郎 2009 「モノをめぐる実践のトポロジー: タイの機械技術から見た「人間のフェティシズム」批判」、田中雅一編『フェティシズム研究 1 フェティシズム論の系譜と展望』195-216 頁、京都大学学術出版会、2009年。

②森田敦郎 2008 「タイ: 徒弟制とクラフト労働市場の役割」、岡田亜弥・山田宵子・吉田和浩編『「産業スキルディベロプメント: グローバル化と途上国の人材育成」85-100 頁、日本評論社、2008年。